

1. 人口：子どもを産み育てる環境の整備により50年後に1億人程度の人口保持

【抜本的少子化対策】

- ▶ 子どもを持つことによる新たな経済的負担を最小限に止めるべく、制度・仕組みの見直し。
- ▶ 資源配分の重点を高齢者から子どもへ大胆に移し、出産・子育て支援を倍増。費用は現世代で負担。

【子どものための政策推進と意識変革】

- ▶ 少子化対策を出産・育児支援よりも拡張、様々な分野の政策を子どものための政策という視点から見直して未来への投資と位置づけて積極的に拡充。

2. 中長期的な経済成長と発展：経済を世界に開き、「創意工夫による新たな価値の創造」により、成長し続ける

【イノベーションが生産性向上の切り札】

- ▶ 「モノづくり」から「モノ・コトづくり」への発想の転換、オープンで柔軟な制度改革によりイノベーション促進（「創意工夫による新たな価値の創造」）
- ▶ ブランディングやマーケティングを通じた付加価値生産性の向上、「知識資本」の蓄積推進。

【産業・企業の「新陳代謝・若返り」促進】

- ▶ 大胆な基盤的な制度改革等を通じて、ダイナミックな産業構造の変革実現。
- ▶ 金融機能の強化（新興市場やベンチャーキャピタルの活性化など）。

【オープンな国づくり】

- ▶ サービス業や中堅、中小企業等の外へのグローバル化と、対日投資促進等の内なるグローバル化の同時進行。
- ▶ グローバル・バリュー・チェーンにおける日本が生み出す付加価値最大化。
- ▶ 国民的議論を進めつつ外国人材の戦略的な受け入れ、外国人材との交流を成長・発展に活かす。

【社会保障制度と財政の持続可能性の確保】

- ▶ 医療・介護サービスの地域的偏在の是正。医療・介護費の増加に歯止め。
- ▶ 債務残高対GDP比を引下げる等の明確な目標の下で、着実に財政健全化を推進。

3. 人の活躍：年齢、性別にかかわらず能力発揮

【性別、正規・非正規：能力や意欲に応じた活躍の機会充実】

- ▶ 男女の働き方変革、人々（特に男性）のワークライフバランスの改善。
- ▶ 少子化に対する取組の見える化。

【高齢者：健康長寿を社会の活力に】

- ▶ 70歳までを働く人（「新生産年齢人口」）と捉え直し、仕事や社会活動に参加。

【若者、子ども：未来を支えるプレイヤーの育成】

- ▶ 生涯を通じて能力を発揮できる人材育成、自発性・創造性を伸ばす教育、学びの選択肢や学び直しの機会の充実。親の経済力とは独立した形で、子どもの能力を伸ばす機会充実し、格差の再生産を回避。
- ▶ 新しい付加価値を生み出し、未来を支える人材（プレイヤー）の育成。